

16
2006. 5

薬友会報

千葉大学薬友会

薬学6年制元年－4年制学科と6年制学科の2学科が設置



西千葉校舎



亥鼻校舎

宇宙から見た千葉大学キャンパス（西千葉・亥鼻）

（提供）千葉大学環境リモートセンシング研究センター
© DigitalGlobe/ 日立ソフト

薬友会会長挨拶	2
副学府長挨拶	2
薬学教育6年制スタート	3
薬学部この一年	5
研究室紹介	6
クラス通信	7
支部だより	11
ゐのはな山岳会・亥鼻会・サークル紹介	12

学部だより	13
受賞等	13
博士学位授与一覧	14
教員の異動	15
薬友会より	15
生涯セミナー	16
編集後記	16

薬友会会長挨拶

堀江 利治

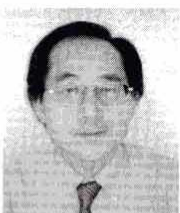


平成18年4月より、山本恵司薬学研究院長からバトンを受けることになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

多くの薬友会会員の皆様が関心をもたれている薬学教育6年制がいよいよスタートいたしました。薬学の歴史の中で記念すべき初年度に83名の薬学部入学者を迎えました。男子39名、女子44名と男女比のバランスがとれた入学者です。新たに編成されたカリキュラムに基づいた教育の中では、自分の将来をしっかりと見据えながら、医療人としての薬剤師（薬学科：6年制）あるいは創薬研究者等（薬科学科：4年制）の道を歩むかを3年進級時に決めることになります。引き続き共用試験、病院・薬局の実務実習などについて検討が行われており、この大改革の目標に相応しい教育システム設計が進められております。昨年は医学薬学府で「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（大学院GP）「情報集積型医療創薬を担う若手研究者の育成」プログラムが採択されました。たいへん喜ばしいことであり、快挙と言ってよいと思います。この支援により、さらに活発に教育・研究活動が進められています。優れた教育・研究を展開するためにもこうした競争的資金の獲得は今後大きな努力目標となります。一方、教育・研究環境を整える上でも亥鼻キャンパスへの移転・統合は急務であります。我が国の厳しい財政状況にあって、見通しは明るいとは言えませんが、第二期工事の早期実現に向けて努力していきたいと思っております。この重要な改革期にあたり薬学部全教職員は一致団結して、優れた医療人を養成することに全力を尽くしていきたいと考えております。薬友会会員の皆様のお力添えは何より心強いものであり、今後ともご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

副学府長挨拶

石川 勉



医学薬学府（学府）は、医学部と薬学部が融合して大学院化されたことに伴い、その大学院教育の担当部局として誕生したもので、今年6年目を迎えます。その間、医学系と薬学系双方での相互理解も進み、着実に実質化してきております。改めてここに学府の課程や専攻について説明します。課程は修士と博士課程で、修士課程には薬学系の総合薬品科学専攻と医療薬学専攻が、そして昨年医学系に設立された医科学専攻の3つの専攻があります。博士課程は、医学系と薬学系の教員で構成される4年コースと薬学系の教員だけで構成される3年コースの2つに分けられます。前者の4年コースは先端生命科学専攻、先進医療科学専攻、環境健康科学専攻の3専攻があり、薬学系の学位は博士（医薬学）、医学系は博士（医学）か博士（医薬学）となります。一方、後者の3年コースは創薬生命科学専攻のみで、学位は博士（薬学）となります。本年度から千葉大学薬学部では6年制と4年制が併設してスタートします。これに伴った大学院の見直しに取り組むべき学府（薬学系）の課題ですが、我々はこれを飛躍のチャンスと捕え、前向きに改革したいと考えております。（大学院GPの記事を参照下さい。）

昨年の挨拶の中でも述べさせて頂きましたが、残念ながら亥鼻キャンパスへの完全移転は、現時点でもメドが立っておらず二分化されたままです。これまで薬学研究院では第二期工事の早期実現を教職員が一丸となって嘆願してきております。今後もさらに声を大にしてその実現を訴えていきたいと思っておりますので、会員の皆様におかれましてもどうぞご協力の程よろしくお願い申し上げます。

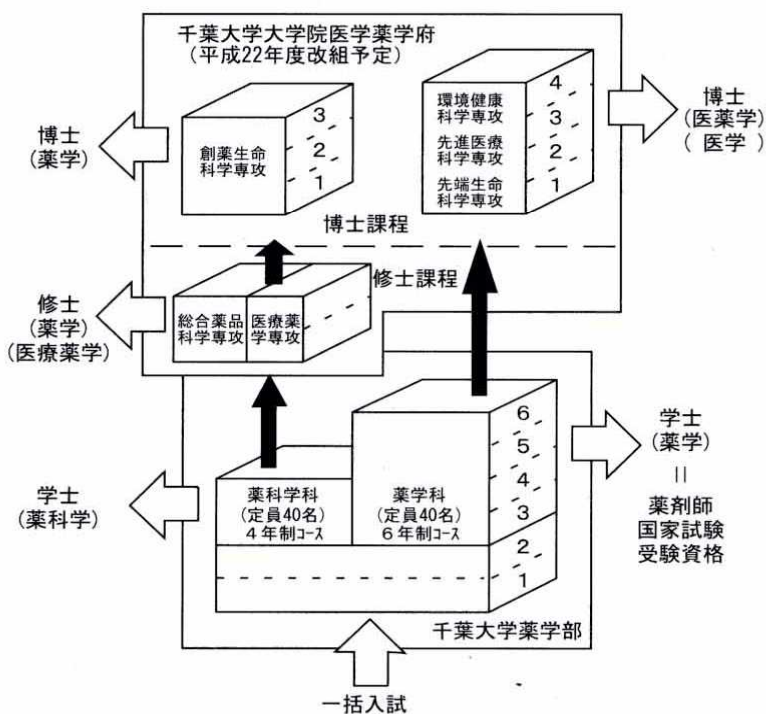
—千葉大学薬学部を目指すもの—

薬学教育・薬剤師養成教育の歴史に残る、教育年限4年から6年への延長がいよいよスタートしました。平成16年5月に学校教育法が国会で全会一致で改正され、その第55条②が「薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの（中略）の修業年限は、六年とする。」となったことによるものです。

なぜ単純に「薬学」の修業年限が六年ではなく、長い修飾文が付くのかの理由は、現在でもわが国の薬学に課せられた使命が、医療の担い手たる優れた薬剤師を養成することと合わせて、医薬品産業を支える技術者・科学者・開発担当者などを輩出すること、保健衛生のスペシャリストを養成することに拠っています。また、この時期に一举に6年制が実現したのは種々の理由がありますが、一つは諸外国の薬剤師教育が5年ないし6年が主流（米国・フランスでは6年、イギリスでは学部4年で卒業し1年間の登録前研修）となっておりグローバルに専門職としてのインターン実習が厳しく義務付けられていることがあります。我が国の薬学4年制教育の現状は、1ヶ月の実務実習が精一杯で日本の薬剤師免許が世界で通用し難くなっています。さらに、医薬分業により薬剤師の職務が高度かつ複雑になったこと、「薬害」といわれる事例が次々に発生し資質の高い薬学専門家が必要とされていること、大学・医療現場・文部科学省・厚生省などの足並みが揃ったことなどが要因と考えられます。

さて、他の国に例の無いユニークな薬学部のシステム「主に薬剤師養成を目的とする6年コースと、技術者・科学者などを養成する4年コースの並立」制が誕生することとなりました。この制度の長所には、「現状のような全学生ではなく、真に薬剤師免許を必要とする高いモチベーションを有する学生に薬剤師教育が施せる。」「総合的科学である薬学を学ばせるにあたって、目標に応じたコンデンスした教育が可能となる。」などがあります。千葉大学薬学部では真に社会の期待に応える人材育成を制度改革に合わせて探り、6年制・4年制並立の考え方を最大限生かし、学部学生定員を50%ずつ（40名+40名）に振り分けることとしました。（図参照）（注：全国規模で見ますと4年制は学生定員約1300名、6年制には約11000名が設定されています。）6年制の薬学科では実践的な医療人たる薬剤師養成、4年制では研究に立脚した薬学専門家養成を目指してカリキュラム編成を行いました。6年制では漢方治療学、看護学、医療行政学などの必修科目を新たに設けましたし、一般実習は2年次後期から実施するようにしました。6年制に対応した国家試験、実務実習など未知の課題もありますが、本学ではこれまで薬剤師国家試験合格率では全国平均を上回り国立大学の常に上位に位置しています。また大学院医療薬学専攻ではすでに6ヶ月実務実習が定着しており、新しい6年制に組み込まれる長期実習を考える準備も整っているといえます。

さらに、将来への不確定な情報を持つのみで入学してくる学生に対してより有効・確実な進路指導



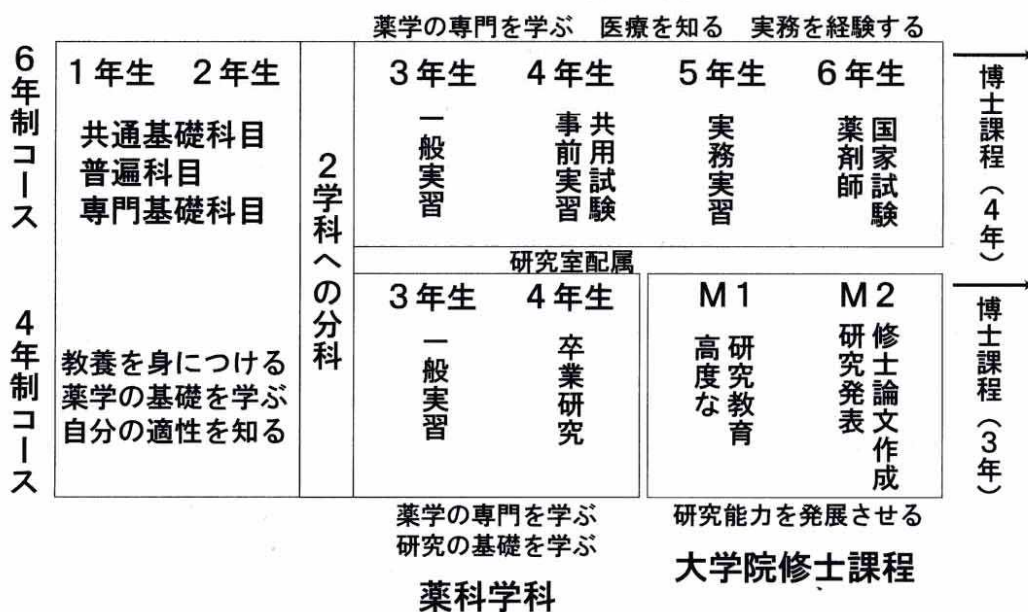
を行うこととしました。つまり入学時点では一括して入学してもらい、1年次・2年次で講義・セミナー・個別相談・インターンシップなどあらゆる方法により高いモチベーションを持って自分の進路を決定してもらえるシステムとしています。現在全国には60以上の薬学部・薬科大学がありますがこうした「一括入学させ一定期間後に4・6年制進学振り分けを行う」大学は約10%程に限られています。本学の新システムでは両学科への進学振り分けは2年次終了時に行い、本人の希望と1, 2年次での成績（卒業生諸氏にとっては耳の痛い話かもしれませんが）が加味されて決めることとしました。大学に入ったらモラトリアム状態という訳にはいかなくなります。またこれまでは、卒業＝国家試験受験でしたから薬剤師の職務について深く認識せずに受験した学生も多かったと思われます。薬学6年制設置の主旨は、知識だけでなく実践力のある薬剤師を育成することですから十分にその意義を認識した学生が6年制課程に進むことによって、より充実した教育へと変化を遂げることとなります。一方、4年制コースに進む学生は引き続き大学院に進学し学問をより深めるよう指導することとしています。現在も学部卒業生の70～80%が大学院に進学していることを考えますと入学時から最低でも6年間学ぶことが薬学部では共通認識となると考えられます。さらに両コースの学生共に最終的には博士の学位をもって指導的な立場で活躍できるよう支援すべきと考えています。

薬剤師国家試験受験資格ですが、原則6年制の学生に与えられます。4年次終了前後に予定されている共用試験（CBT, OSCE）、実務実習5ヶ月などはまだ実感の湧かない部分ではありますが、現在全国の関係者により着々と準備が進められています。4年制卒業者もしばらくの間、6年制学生に準じた講義・実習などを履修することにより受験可能とされていますが一般的には困難なことで理解する方がよさそうです。

22年間にわたり発行されている業績集は本学の着実な研究成果を示しており、学生・大学院生の就職状況も経済状況の悪い中でもほぼ100%の就職率を維持しております。地の利、伝統にも助けられているのですが、学部受験者・大学院進学希望者の数は大変多く嬉しい悲鳴を上げています。こうしたポジティブな側面をさらに発展させることは勿論、今後6年制・4年制並立の考え方を最大限生かし薬学部に課せられた社会の期待に応えて行くこと、また現在道半ばとなっている亥鼻移転の早期実現を含めたあらゆる教育研究環境を整える厳しい責務をやり遂げるため全力を傾注したいと教職員一同考えています。（文責：山本恵司）

6年制および4年制コースで学ぶこと

薬学科



薬学部这一年

文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択（医学薬学府）

文部科学省は、平成17年度に研究拠点形成費等補助金（若手研究者養成費）として「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（大学院 GP-Good Practice）を公募しました。医学薬学府では、「学生が各自の医学的あるいは薬学的モチベーションに基づき各種疾患に対する創薬の標的分子を自ら選定し、多面的な生命情報科学の手法を駆使して医薬品候補分子の設計、薬効評価を行い、さらには医療現場、社会への発展的視野を修得する」ことを目指し、「情報集積型医療創薬を担う若手研究者の育成」という名称で応募しました。その結果、338件のうち97件の採択課題に入り、17年度は4,400万円の補助を受けました。このカリキュラムの特徴は、各専攻（博士課程）に横断的で、1年次に目標設定、2年次に中間発表、そして学位審査では英語による口頭発表を課していることです。医学薬学府では、これを核にさらに魅力ある大学院教育を構築しようとしています。（石川 勉）

亥鼻・バス停「千葉大薬学部前」に改称

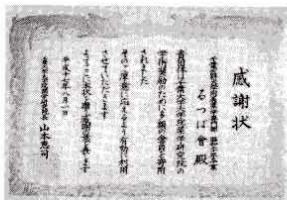
新しい薬学部校舎が完成し早くも2年が経過しました。千葉駅からのバス停留所名は「大和橋-郷土館前-千葉大医学部入口-大学裏門-中央博物館-大学病院」でしたが、大学裏門バス停をこの機会に「千葉大薬学部前」に改称することを京成バスなどに申し入れ、平成18年1月より実現することとなりました。実際にはかなりの費用を負担することとなりましたが、永年に渡る教授会親睦会繰越金より支出していただきました。（山本恵司）



るつぽ会（昭和20年9月卒業クラス）に感謝状

昭和20年9月に千葉薬専卒業クラスの同窓会「るつぽ会」から薬学部へ30万円のご寄付のお申し込みをいただき平成17年度の薬学部奨学寄附金として頂戴しました。

独立法人化以後、大学の財政状態は逼迫しており卒業生の方々からの暖かいご配慮に感謝し薬学研究院長より感謝状が、るつぽ会代表・田村統司氏に贈られました。（山本恵司）

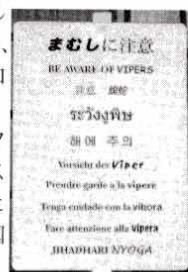


ソフトボール大会開催

平成17年9月5、7および8日の3日間、亥鼻キャンパスのグラウンドで研究室対抗ソフトボール大会が開催（再開？）されました。13研究室と1年次学生チーム（1チームは2講座の合同）が残暑と雨天のなかで熱い戦いを繰り広げ、某教授年齢詐称疑惑もありますが、薬効薬理学研究室が栄冠を手に入れました。学生や教員間の交流促進を期待して今年も同時期の開催を計画しています。OB、OG諸氏の応援や参加をお待ちいたします。なお、開催に際し、薬学部と医学部の事務部、薬学部野球部にご協力頂きました。お礼申し上げます。（荒野 泰）

薬草園に「まむしに注意」の立看板

以前、薬学部附属薬用植物園の小高い丘（現在の百周年記念館辺り）にありました「まむしに注意」の立看板をリニューアルし、百周年記念館並びに温室近くの入口の2ヶ所に設置しました。今回は、日本語の他、上から英語、中国語、タイ語、ハングル、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、スワヒリ語の計10カ国語で記載された多国籍の立看板です。（北島満里子）



最近の薬剤師国家試験合格状況

薬学部6年制の実施が決まり、最近の薬剤師国家試験合格率が上昇しています。千葉大学も最近の新卒者合格率は連続して90%以上の好成績です。昨年の第90回国家試験は、新卒者合格率は94%で不合格者は5名です。

今年の第91回国家試験では、新卒者合格率89.77%（88名受験79名合格、国公立2位、全国13位）、既卒者合格率19.05%（21名受験4名合格）、総計76.15%（109名受験83名合格）の成績であり、7年連続して新卒者は90%前後の合格率を維持しています。これは他の国立大学には見られない快挙です。今後の課題は、既卒受験者の合格率を如何にして上昇させるかでしょう。（上野光一）

金久保好男先生ご逝去

生前千葉大学医学部附属病院薬剤部長、金久保好男先生（享年79歳）におかれましては、平成17年12月20日（火）午後4時にご逝去されました。心より、ご冥福をお祈り申し上げます。

金久保先生は、昭和54年4月にご赴任され平成5年3月にご退官されるまで薬剤部長・教授としてご活躍され、薬学部の教育や薬学研究科での大学院生指導にご尽力いただきました。（山本恵司）

薬学部 この一年

文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択（医学薬学部）

文部科学省は、平成17年度に研究拠点形成費等補助金（若手研究者養成費）として「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（大学院 GP-Good Practice）を公募しました。医学薬学部では、「学生が各自の医学的あるいは薬学的モチベーションに基づき各種疾患に対する創薬の標的分子を自ら選定し、多面的な生命情報科学の手法を駆使して医薬品候補分子の設計、薬効評価を行い、さらには医療現場、社会への発展的視野を修得する」ことを目指し、「情報集積型医療創薬を担う若手研究者の育成」という名称で応募しました。その結果、338件のうち97件の採択課題に入り、17年度は4,400万円の補助を受けました。このカリキュラムの特徴は、各専攻（博士課程）に横断的で、1年次に目標設定、2年次に中間発表、そして学位審査では英語による口頭発表を課していることです。医学薬学部では、これを核にさらに魅力ある大学院教育を構築しようとしています。（石川 勉）

亥鼻・バス停「千葉大薬学部前」に改称

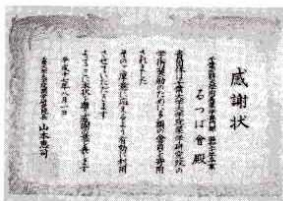
新しい薬学部校舎が完成し早くも2年が経過しました。千葉駅からのバス停留所名は「大和橋-郷土館前-千葉大医学部入口-大学裏門-中央博物館-大学病院」でしたが、大学裏門バス停をこの機会に「千葉大薬学部前」に改称することを京成バスなどに申し入れ、平成18年1月より実現することとなりました。実際にはかなりの費用を負担することとなりましたが、永年に渡る教授会親睦会繰越金より支出していただきました。（山本恵司）



るつぼ会（昭和20年9月卒業クラス）に感謝状

昭和20年9月に千葉薬専卒業クラスの同窓会「るつぼ会」から薬学部へ30万円のご寄付のお申し込みをいただき平成17年度の薬学部奨学寄附金として頂戴しました。

独立法人化以後、大学の財政状態は逼迫しており卒業生の方々からの暖かいご配慮に感謝し薬学研究院長より感謝状が、るつぼ会代表・田村統司氏に贈られました。（山本恵司）

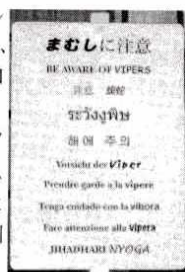


ソフトボール大会開催

平成17年9月5、7および8日の3日間、亥鼻キャンパスのグラウンドで研究室対抗ソフトボール大会が開催（再開？）されました。13研究室と1年次学生チーム（1チームは2講座の合同）が残暑と雨天のなかで熱い戦いを繰り広げ、某教授年齢詐称疑惑もありますが、薬効薬理学研究室が栄冠を手に入れました。学生や教員間の交流促進を期待して今年も同時期の開催を計画しています。OB、OG諸氏の応援や参加をお待ちいたします。なお、開催に際し、薬学部と医学部の事務局、薬学部野球部にご協力頂きました。お礼申し上げます。（荒野 泰）

薬草園に「まむしに注意」の立看板

以前、薬学部附属薬用植物園の小高い丘（現在の百周年記念館辺り）にありました「まむしに注意」の立看板をリニューアルし、百周年記念館並びに温室近くの入口の2ヶ所に設置しました。今回は、日本語の他、上から英語、中国語、タイ語、ハングル、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、スワヒリ語の計10カ国語で記載された多国籍の立看板です。（北島満里子）



最近の薬剤師国家試験合格状況

薬学部6年制の実施が決まり、最近の薬剤師国家試験合格率が上昇しています。千葉大学も最近是新卒者合格率は連続して90%以上の好成績です。昨年の第90回国家試験は、新卒者合格率は94%で不合格者は5名です。

今年の第91回国家試験では、新卒者合格率89.77%（88名受験79名合格、国公立2位、全国13位）、既卒者合格率19.05%（21名受験4名合格）、総計76.15%（109名受験83名合格）の成績であり、7年連続して新卒者は90%前後の合格率を維持しています。これは他の国立大学には見られない快挙です。今後の課題は、既卒受験者の合格率を如何にして上昇させるかでしょう。（上野光一）

金久保好男先生ご逝去

生前千葉大学医学部附属病院薬剤部長、金久保好男先生（享年79歳）におかれましては、平成17年12月20日（火）午後4時にご逝去されました。心より、ご冥福をお祈り申し上げます。

金久保先生は、昭和54年4月にご赴任され平成5年3月にご退官されるまで薬剤部長・教授としてご活躍され、薬学部の教育や薬学研究科での大学院生指導にご尽力いただきました。（山本恵司）

